

上越教育大学研究プロジェクト 終了報告書

研究代表者 所属・職名 学校教育学系・教授

氏 名 大島 崇行

研究期間 令和4年度～令和5年度

研究プロジェクトの名称	Society5.0時代の教師研修の開発と評価 ～小規模学校間での遠隔協働授業の創造と実践を通して～
研究プロジェクトの概要	<p>本研究の目的は、(1)小規模学校間の遠隔協働授業を設計・実践していく教師がどのように実践を創造していくかを検討し、その結果をもとに(2)新たな教員研修を開発しその効果を検証することである。</p> <p>近年、遠隔授業のノウハウやポイント等の効果検証はされてきているが、その実践を行う教師の学びに着目する研究は見当たらない。学校現場での教師の学びの「文化は萎えつつある」との指摘（石井、2017）もある中、小規模校・若手の研修には多くの課題がある。若い教師が増加し、1人1台のタブレット端末での授業設計を前提とする新たな局面を迎えた学校現場において、遠隔実践を通し教師がどう学んでいるのかを検討し、そして持続可能・効果的な教師の学びの場をデザインすることは喫緊の課題である。</p>
研究 成 果 の 概 要	<p>新潟市の2つの小規模校の校内研修に参画した。これまで遠隔協働学習においては、A校B校が順番に発表しあう交互発表型の授業実践が多く行われてきたが、両校では、学習者同士が考えを出し合い練り上げるような相互交流型の授業実践の創造を目指した。その結果、朝学習等を活用し日常会話しお互いの関係性を構築した上で、総合的な学習の時間での学習発表をお互いが評価し合い、より良い発表を作り上げていこうとする実践が創造され、その授業では学習者間の良質な対話がなされていた（大島・阿部、2024）。この実践をする過程の中で両校の教員が遠隔システムを使い、模擬授業・検討会をするなどの遠隔を活用した合同研修会が行われた。一方、この研修会をするためにはそれぞれの時間調整をしたりするなど日常的に行うにはそれなりの負担が生じる。これを受け、本研究では、日常的に実施可能な遠隔OJTのシステムを開発した。二つの教室を結び遠隔協働学習を行う。その際、学習者用の他に教師用の遠隔会議システムを立ち上げ、お互いの発話をワイヤレスイヤホンで視聴可能にする。それにより、お互いの個別支援の声がけが視聴可能となり実践しながら教授方法を学ぶことができる。そして、学習者が授業終末の振り返りをしている間に教師間の振り返りを行う。この研修デザインにより放課後の振り返り時間を確保する必要がなくなり、自身の教室で授業を進めることができ、かつ勤務時間を圧迫しないOJTを行うことが可能となった。</p>
研究 成 果 の 発 表 状 況 (※今後の予定も含む。)	<ul style="list-style-type: none"> ・大島崇行、阿部雅也（2024）：小学校における遠隔双方向型小集団話し合いの様相、上越教育大学研究紀要、第44巻、（2024年8月発刊予定） ・2024年9月、日本教育工学会にて、遠隔協働学習と同期した遠隔OJTの開発を発表予定、その後、日本教育工学会に論文投稿予定である。
学校現場や授業への研究 成果の還元について	<p>開発した遠隔OJTを使用し、新潟市立濁川小学校と会津ザベリ才学園を結んだ実践を行う予定である。また、これら実践は、将来的に教員を読者対象とした教育誌に寄稿、教員対象研修会で報告する予定である。</p>